

図1. 2014年長野県北部地震 ( $M_{\text{JMA}}6.7$ ) の震源過程解析 (京都大学防災研究所 [課題番号: 1903])  
 (左) マルチタイムウィンドウ波形インバージョンによる滑り分布  
 (右) 得られた断層パラメータの経験則 (宮腰・他, 2015) との比較

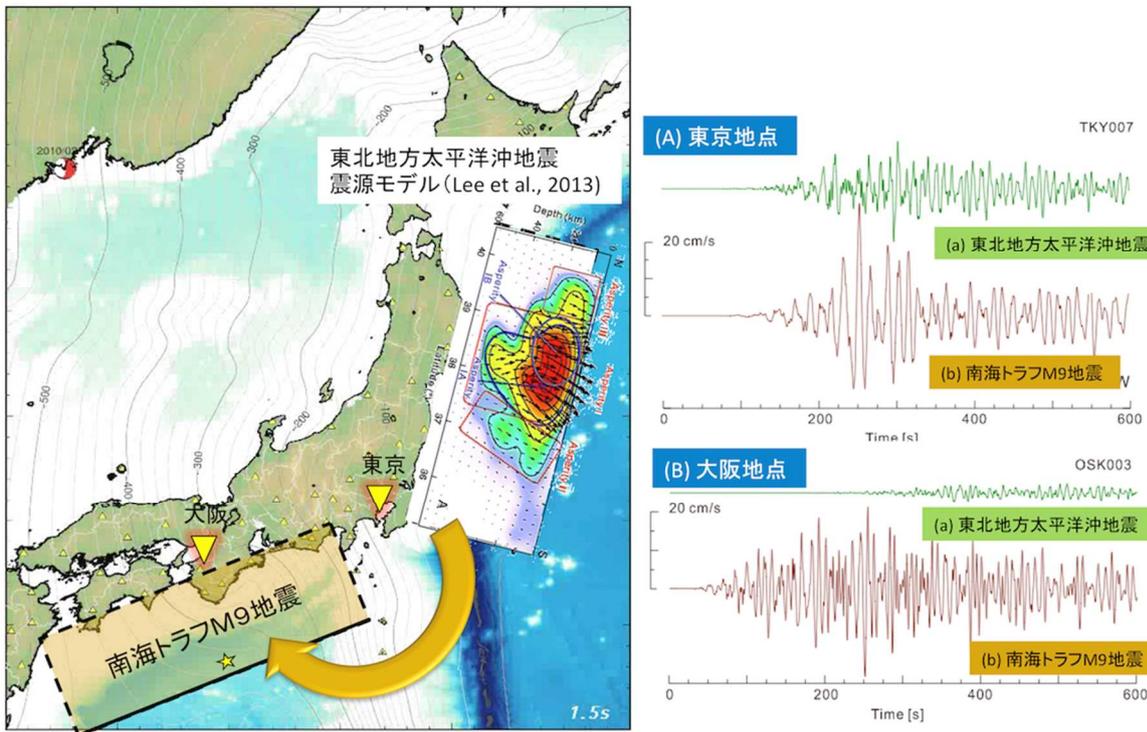


図2. 仮想南海トラフM9地震による長周期地震動の評価 (東京大学地震研究所 [課題番号: 1516])  
 (A) 東京地点, (B) 大阪地点。それぞれ (a) 2011東北地方太平洋沖地震の震源モデル (Lee et al., 2013) を用いた長周期地震動のシミュレーション波形, (b) 同じ震源を南海トラフに置いた場合の予測波形。

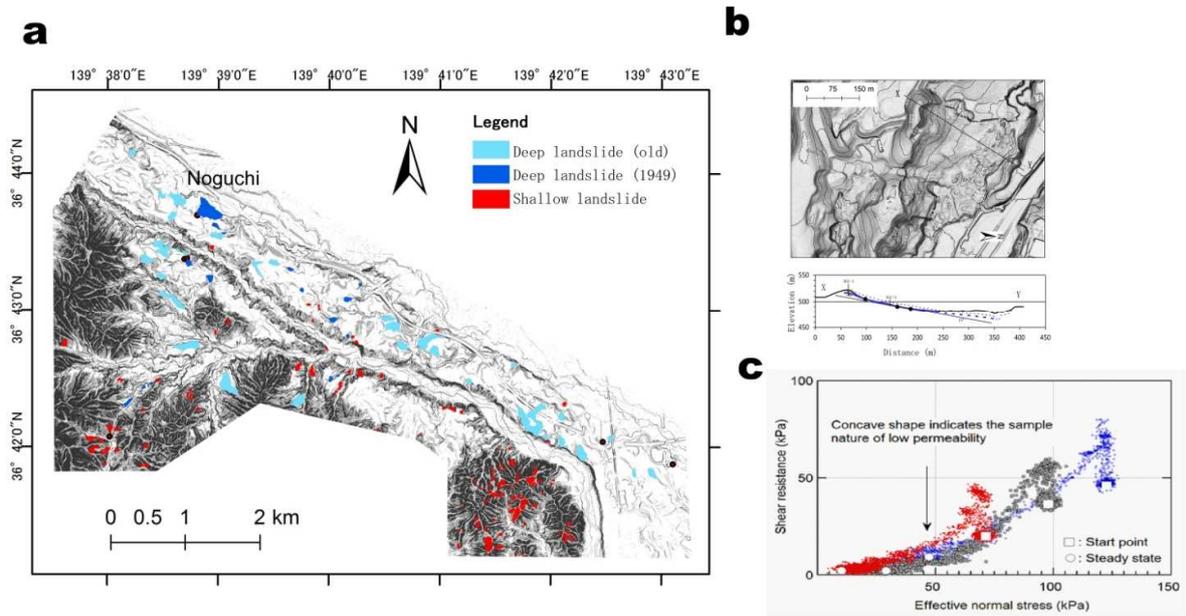


図3. 1949年今市地震による崩壊性地滑りの分布とせん断試験結果(京都大学防災研究所[課題番号:1912])  
 (a) 崩壊性地滑りの分布。(b) 野口の崩壊性地滑りの地形と断面図(青線は滑り面の形成された小川火山礫層)。(c) 今市軽石の飽和非排水せん断試験結果。

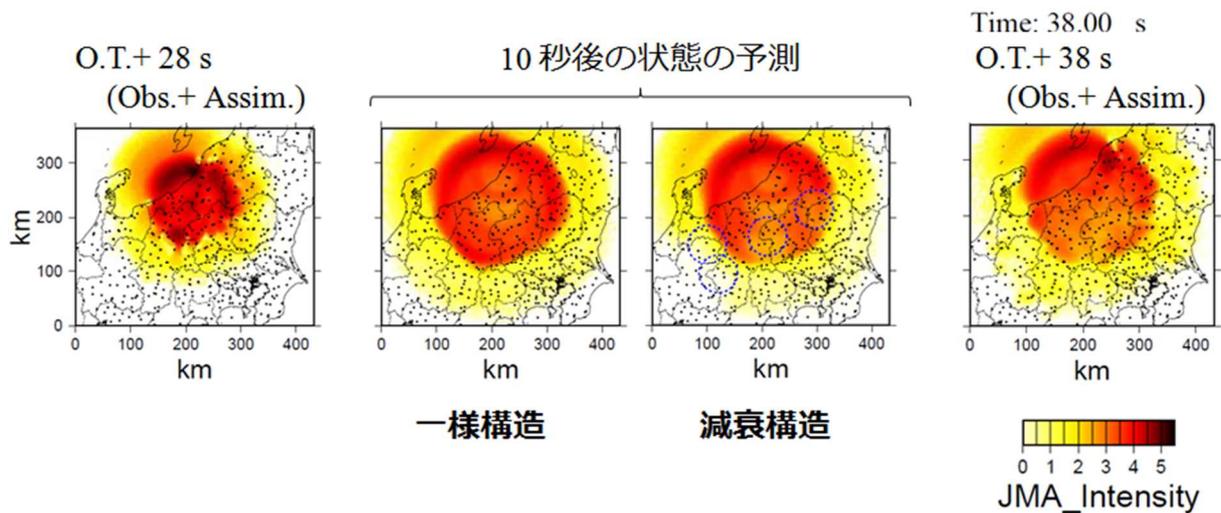


図4. 揺れの実況値を用いた地震動の即時予測を2004年新潟県中越地震の最大余震(M6.5)に適用した例(気象庁[課題番号:7008])

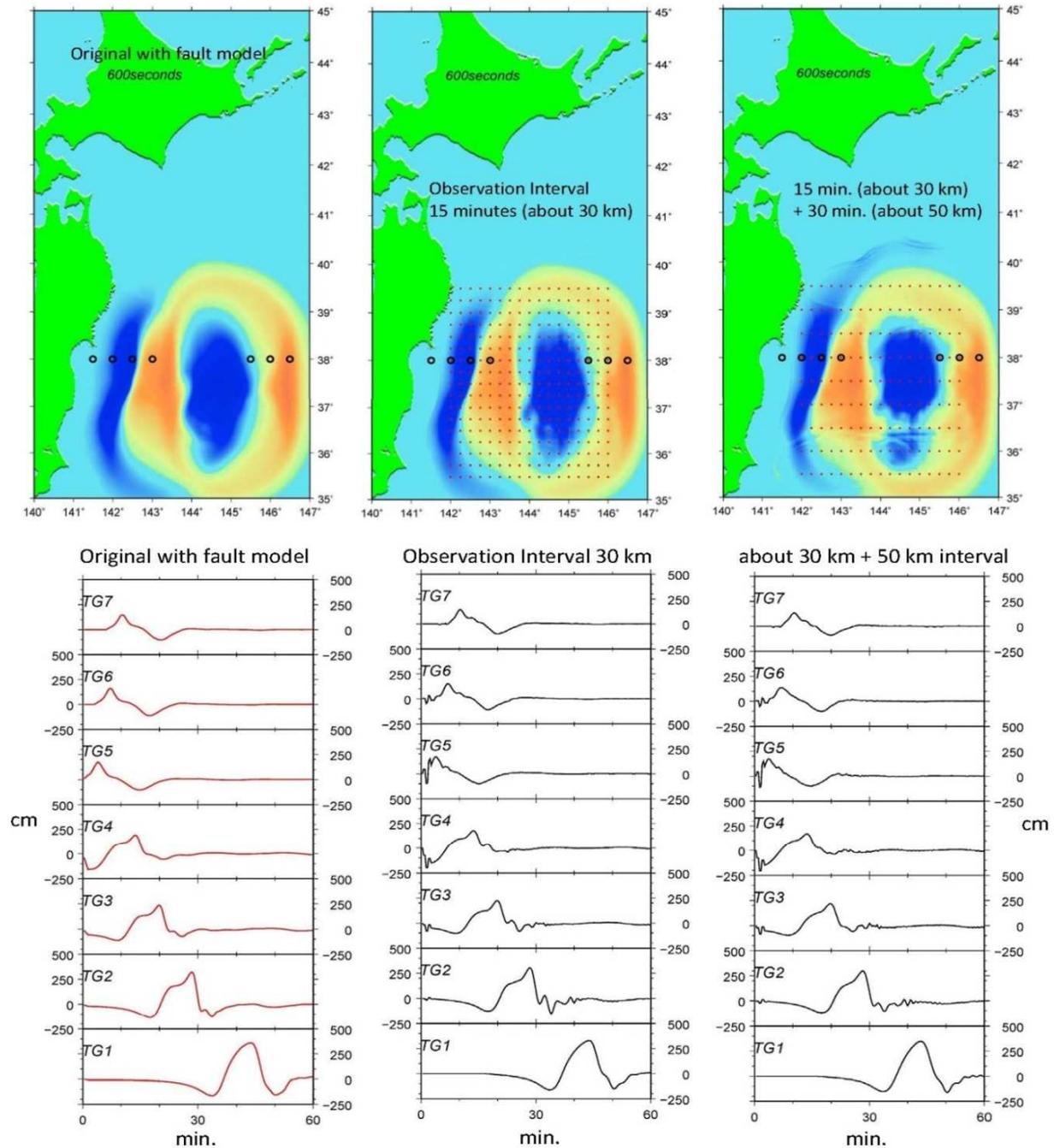


図5. 即時津波予測に向けた新しい津波数値計算手法の数値計算実験（北海道大学 [課題番号：1005]）

（上）津波波高分布の比較。左）断層モデルから計算された実際の津波数値計算結果，中）30km間隔の観測点配置の津波波形から予測された津波波高分布，右）東西30km間隔＋南北50km間隔の観測点配置の津波波形から予測された津波波高分布。

（下）津波波形の比較。左）断層モデルから計算された実際の計算津波波形，中）30km間隔の観測点配置の津波波形から予測された計算津波波形，右）東西30km間隔＋南北50km間隔の観測点配置の津波波形から予測された計算津波波形。

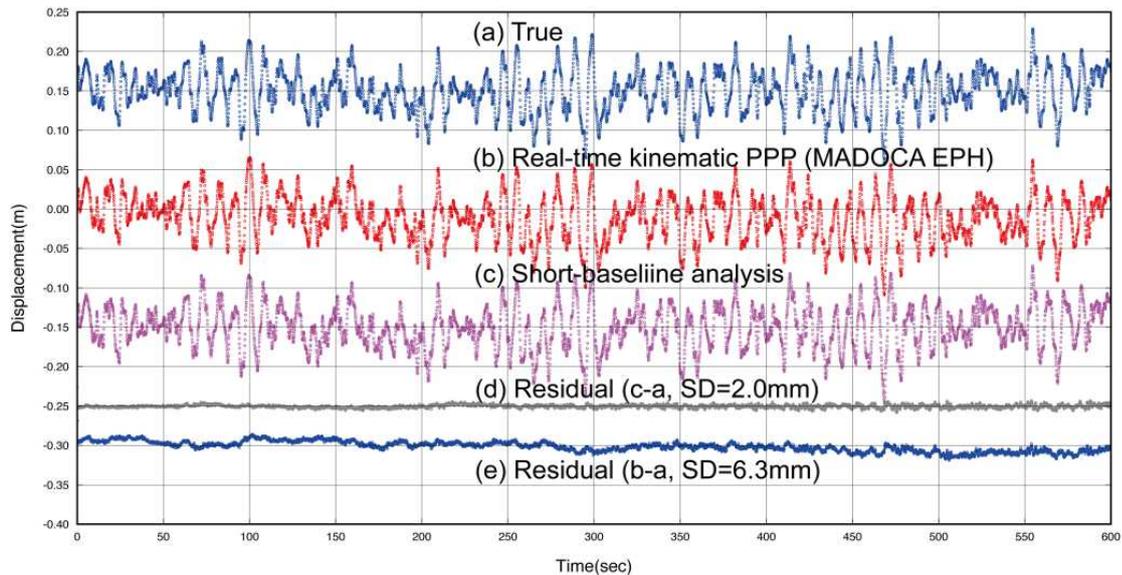
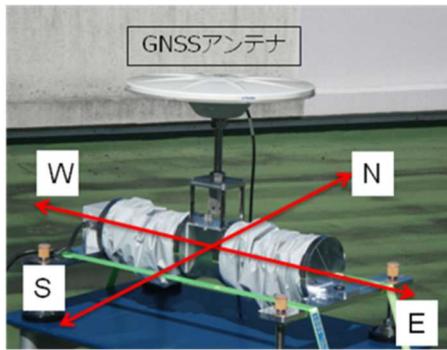


図6. 精密可動台を用いたキネマティックGNSS時系列の精度評価（東北大学〔課題番号：1209〕）

（左）試験状況。（右）(a)に可動台に与えた動きを，(b)にリアルタイムPPP解析結果を，(c)に10mの短基線解析結果をそれぞれ示す．(d)，(e)にそれぞれ与えた動きとの残差時系列を示す．

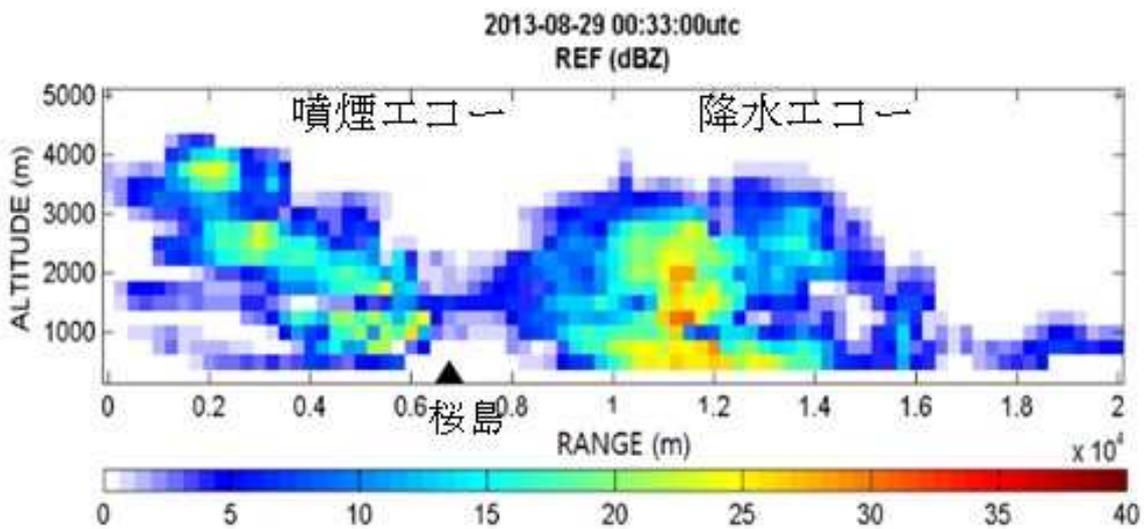


図7. レーダーパラメーターを用いた火山灰雲と雨雲の分離（京都大学防災研究所〔課題番号：1913〕）

2013年8月29日桜島噴火事例における，国土交通省の垂水Xバンドマルチパラメータレーダーデータの比偏波間位相差（KDP）分布